

特集：“ボランティアの敷居は高くない”

- 02 ボランティアに対するイメージ調査
- 03 趣味・特技×ボランティア in献血ルーム
- 04 あなたは拡大写本を知っていますか？

- 秦野市拡大写本赤十字奉仕団（神奈川県） -



秦野市拡大写本赤十字奉仕団が手書きで作成した弱視の小学生が使用する教科書

ボランティアの 敷居は 高くない!?

写真提供：津田沼献血ルーム

RCV編集委員（大学生）が同年代に聞いてみた！ “ボランティアのイメージは？”

「ボランティアをしている」と私たちの周りに言うと、「真面目」とか「すごい」などの感想が多く、ボランティアに対して敷居が高いと感じる人が多いのではないかと考えました。

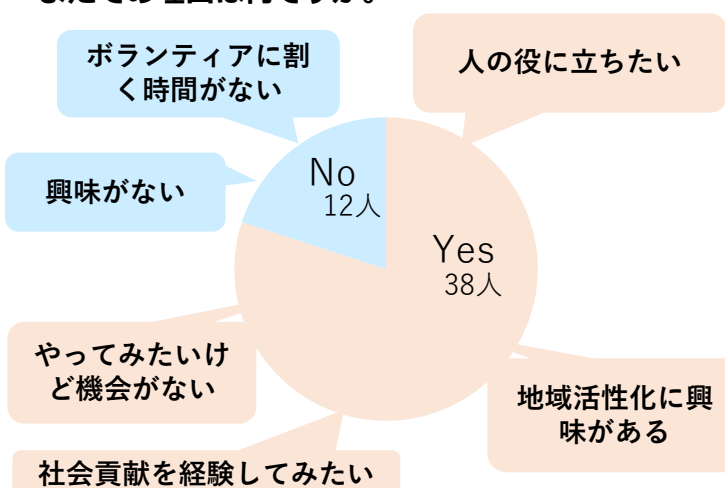
同じ年代の50人にボランティアに対するイメージを聞いたところ、やはりその回答は「まじめ」「大変そう」というものばかり。

でも、みんな興味はあるみたいです…

そこでボランティアをやってみたいかどうかについて聞いてみました。



Q あなたはボランティアをやってみたいですか？ またその理由は何ですか。



対象者：RCV編集委員所属大学・アルバイト先 50人

社会貢献に対する高い意識はあるものの、 “ボランティアに割く時間も チャンスもない”

調査の結果、約8割の人が「ボランティアをやってみたい」と回答。

その中には「やってみたいけど、なかなか機会がない」「何をやったら良いかわからない」と言った声もありました。

特に社会人は、働き始めると自由に使える時間が学生の時より少なくなり、ボランティア活動と疎遠になってしまう傾向があるようです。

そこで、働きながら特技や趣味を活かしてボランティアをしている人たちにインタビューしてみました。

特技・趣味×ボランティア in 献血ルーム

献血のボランティアは、献血の呼びかけ、イベント運営・企画など様々な活動があります。今回は、献血ルームでボランティアをされている2人の方にお話を伺いました。

津田沼献血ルーム

神谷純子さん×ハンドケアマッサージ



ハンドケアで献血前の癒しのひと時

献血者の皆様にリラックスした時間を届けたい

●ボランティアを始めたきっかけ

私の仕事はビューティーディレクターです。日頃から献血の必要性を感じ、ハンドケアのマッサージで献血者がもっと気楽に献血できるのではないかと思い、献血ルームでのボランティアを始めました。

●一番のやりがい

ボランティア活動がプロとしての自分磨きにもなり、それが誰かのためになっていることに大きなやりがいを感じます。献血者がハンドマッサージでリラックスされ、笑顔で献血に向かわれたときは本当にうれしいです。

まずは身近で小さなことから始める

●ボランティア活動は敷居が高いと感じる人へ

ボランティア活動で大切にしていることは、ボランティアがかしこまったものだと考えすぎないことです。まずは身近で些細なことから行動してみてください。最初は恥ずかしいと感じるかもしれませんが、仲の良い友人や周りの人たちを巻き込んで活動していくと、段々とボランティアが楽しくなってくると思います。



マッサージを楽しみに来る献血者もいる

献血ルーム 吉祥寺タキオン

飯塚恵美さん×オラクルカード占い



ボランティアの合間、今でも月に1度の献血を続けている

無理のない範囲で自分の時間を社会に還元

●ボランティアを始めたきっかけ

献血ルームには高校生の頃から通っています。両親が大怪我で輸血をしたこともあり、献血はとても身近なものでした。

ある時、友だちに趣味のオラクルカード占いをしたらとても喜んでくれたので、占いでボランティアができないかと思い、献血ルームに電話をしてみました。

●一番のやりがい

色々な人と出会うことで、自分の視野が広がることです。ライターという仕事柄、人と話すことはとても勉強になります。占いで「ありがとう」と言われる機会も増え、この「ありがとう」がうれしくて活動を続けています。

自分も満足してこそボランティア

●ボランティア活動は敷居が高いと感じている人へ

仕事が忙しく悩んでいたとき、ボランティア活動が自分自身をリセットするきっかけになりました。今は、趣味の延長として、無理のない範囲でボランティアをしています。

悩んだり、困ったりしている方々の背中を押せる存在になりたいという思いをもって活動することが、相手も自分自身も満足させてくれる秘訣だと感じています。



オラクルカードはスピリチュアルなメッセージを受け取る占いツール



小学校の授業で弱視の生徒が使用する教科書を奉仕団員が拡大

あなたは拡大写本を知っていますか？

秦野市拡大写本赤十字奉仕団（神奈川県）

拡大写本とは？



小学校の授業で使う楽譜をパソコン（ワード）を使用して作成

拡大写本とは、弱視・老眼などによって小さい文字が見えづらい方に対し、小説や時刻表など一つ一つ要望にあわせて手書きやパソコンを使って大きく書き写したものです。

弱視の子どもたちに向けては、教科書、漢字ドリルなどの副教材の作成を行っています。

コピー機で本や教科書の文字を大きくすると行間や文字間まで大きくなり、読みにくくなってしまいます。また、ページ数が増えるため、本が分厚くなって持ち運びが困難になります。そこで拡大した教科書を單元ごとにまとめ、ランドセルに入る大きさになるよう工夫しています。



小学生が使用する教科書について話し合う大江委員長（中央）

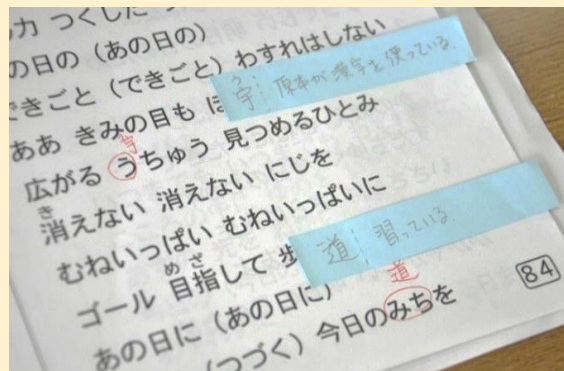
ボランティア活動のきっかけ

- ・街中で視覚障がい者の方を見かけた時、どのようにして文字に触れているのか疑問に感じたから。
- ・市の広報の団員募集記事を見て、自分の余っている時間を有効に使いたかったから。
- ・子どもの時にヘレン・ケラーの本を読み、長年ボランティアに興味があったから。
- ・自宅でもパソコンを使いながら手軽に活動できそうだから。

一人一人に合った文字を提供したい

授業で使用する教科書を扱っているため、1字1句間違いないか奉仕団内でチェックを重ねることを大切にしています。利用者によって文字の見え方や色の見え方に違いがあるため、作成前に文字の間隔や太さ、色のバランス等について利用者と何度も確認を行います。

「弱視の子を持つお母さんから『今まで、自分で読める音楽の楽譜がなかったため、歌を歌うことが出来なかった息子が、拡大写本の楽譜に出会ってから毎日自宅で歌を歌っています。』と聞いたときは、活動を続けて良かった、嬉しかった。」と奉仕団の皆さんがやりがいを語ってくれました。



文章内に誤字や脱字等が無いが、団員同士で確認・修正



自宅で作成したものを持ち寄り、週1回ミーティング

障がいは社会が作っている

「視覚に障がいがあっても、点字や拡大文字があれば、文字が読め、歌が歌え、本が読める。文字が読めたら障がいではないのではないかと。障がいは社会が作り出していることが多いのではないかと。」と大江委員長は話します。

多くの方に拡大写本の存在や活動を知っていただくため、活動詳細や講座情報を市の広報紙に掲載したり、団内でポスターを作成し公民館やスーパーに掲示したりと幅広い広報活動を行っています。また、拡大教科書の普及には、学校や教育委員会への働きかけも欠かすことができません。

好きな教科は、国語と体育と図工。 最近では、漢字を書くことが楽しい。

拡大写本の教科書や、漢字ドリルなどで勉強をしている小学校2年生の山口悠翔（ゆうと）くん。

好きな教科は、国語と体育と図工。夏休みの課題で作った工作は、クラス代表として「総合学習展」に出品されました。

「毎日楽しく勉強できていることが嬉しい。教科書を作ってくれたみなさんありがとう。」と感謝の思いを笑顔で語ってくれました。



現在はピアノの演奏会に向けて練習中



友達と一緒に大学のボランティアサークルの説明会に行ったことがきっかけでボランティアを始めました。普段、あまり触れ合うことない世代の方々と交流できるのが楽しいです。RCVを読んでいただき、趣味や特技を活かしたボランティア活動があることやボランティアの面白さを多くの方々に知っていただけたら幸いです。

(明治学院大学 菊地絢菜)



友達から誘われ、私もボランティアをやってみたいと思い、活動を始めました。大学の専攻で学んだことがボランティアの中で役立つ瞬間がとてうれしかったです。RCVがボランティア活動を始めるきっかけになったら幸いです。

(明治学院大学 佐藤菜未)



何気なく大学内の赤十字奉仕団の説明会に行ったことがきっかけでボランティアを始めました。同じ思いを持った人たちと活動ができ、献血の呼びかけや募金活動に参加して仲間も増えました。とても楽しく、活動にやりがいを感じています。今回、秦野市拡大写本赤十字奉仕団を取材させていただき、弱視の方々に対する活動の重要性を知りました。拡大写本ボランティアのような活動が広まれば嬉しいです。

(日本大学 鈴木啓太)

第47回 朗読録音奉仕者感謝の集いで全国表彰

平成29年9月28日、第47回「朗読録音奉仕者※感謝の集い」(公益財団法人鉄道弘済会、社会福祉法人日本盲人福祉委員会 主催)が開催され、苫小牧市朗読赤十字奉仕団の影浦泰子さんが、全国表彰されました。影浦さんは活動歴37年の大ベテラン、朗読録音時間は述べ1,171時間にも及びます。日赤の朗読講習会を受講したことがきっかけで活動を始め、楽しく続けていく内に今日に至ったとのこと。日本盲人福祉委員会の竹下理事長は、全国から選ばれた9名の受賞者に対し、「日本の視覚障がい者の教育・文化はボランティアに支えられています。この表彰は、私たちからのお礼の場でもあります」と感謝の言葉を語りました。



40年近く活動を続けている影浦さん。「思いがけず受賞という形でご褒美をいただき嬉しいです。」

※朗読録音奉仕とは、視覚障がい者向けの録音図書製作を主に担う活動です。その他、個人的な文書や資料の読み上げ等、視覚障がい者の生活に欠かせない情報取得に資する活動も行います。

赤十字ボランティアへの参加、登録についてのお問い合わせ

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は日本赤十字社 各都道府県支部・施設で受け付けています。

WEBページで

日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp/volunteer/>



FacebookやTwitterでも逐次情報を更新しています！